

基本目標1 「安全・安心・支えあい」の暮らしやすいまち

分野別政策2 みんなで共に支えあう福祉の充実と仕組みづくり

施策 No. 6 地域福祉の推進

10年後のめざす姿 少子・高齢化などにより、多様化する福祉ニーズに対応し、地域課題を市民自らが発見し、課題の解決に向けて、様々な主体が協力し、みんなで支えあうまちとなっています。

住みよさ指標	当初	単位	実績値の推移					目標値 (H37)	評価	
			H28	H29	H30	H31	H32			
1 「地域の支え合い」に関する市民満足度	17.7	%	目標値	18.5	15.0			21.0	25.0	↘
			実績値	11.1						
2 地域福祉活動への延べ参加者数	65,135	人	目標値	65,500	67,000			67,000	70,000	○
			実績値	66,118						

総合評価	住みよさ指標の状況
C	各地区(校区)福祉委員会が実施する地域福祉の啓発事業や、講座開催、福祉サロン活動などを支援したことにより、地域福祉活動への参加者数が増加した。
施策を構成する事業の状況	
地区福祉委員活動をはじめとした地域の支え合いや助け合い活動などを支援した。コミュニティソーシャルワーカー(CSW)に生活支援コーディネーターを兼務させることで、個別支援にとどまらず、地域支援へと広がるきっかけとなった。また、住民が地域課題に対して自ら取り組み、その活動が継続・充実するようきめ細かい支援を行った。	

これまでの取り組み	地域の特性に合った地域福祉活動が活発に展開されるよう、地区(校区)福祉委員会に対して支援している。また、中学校区単位でCSWを配置し、支援を必要とする人への身近な地域の相談窓口として、サービス情報の提供を行うほか民生委員・児童委員、福祉委員とともに関係機関や地域と連携した支援を推進している。
課題(めざす姿との差)	民生委員・児童委員やCSW、福祉委員をはじめ、多くの人が地域で見守り・相談や情報提供などの支援活動を行っているが、少子・高齢化の進展により、複雑・多様化する福祉ニーズに対応するには負担が大きく、さらには担い手自身の高齢化により担い手不足が重要な課題となっている。また、地域課題に対して住民自らが取り組み、支えあい、解決していく新たな仕組みの構築が必要となっている。
今後の方向性	平成28年3月に策定した「河内長野市第3次地域福祉計画・河内長野市社会福祉協議会第2次地域福祉活動計画」に基づき、下記のとおり取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・相談員の質の向上など相談・支援体制の充実を図る。 ・地域福祉活動の担い手の育成に努める。 ・関係機関との連携を強化し、地域における支え合いの活動を促進する。